

目次／開館 40 周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」
表紙／展覧会案内 開館 40 周年記念特別展「みる！しる！わかる！
三陸再発見」 p.2-5 / 事業報告 博学連携事業 岩手県立平館高等学
校の生徒さんによる大漁バンテンづくり／活動レポート チャレン
ジ！はくぶつかん p.6 / 活動レポート 「縄文いわての環状列石（ス
トーンサークル）」展の“スピンオフ”（関連）展示／活動レポート
トピック展 宮古盛岡横断道路 新区界トンネルの石 p.7 / インフォ
メーション p.8

開館 40 周年記念特別展
みる！しる！わかる！三陸再発見



三陸地方の暮らしや文化とそれらを育んだ自然について、まだ広く知られていない部分にも光を当て、三陸の多様かつ奥深い魅力を示す展覧会です。あわせて、東日本大震災から 10 年が経過し、月日とともに薄れがちな防災・減災意識を再び高める機会とします。

■展覧会案内

開館40周年記念特別展「みる!しる!わかる!三陸再発見」

会期：令和3年6月12日(土)～8月22日(日) 会場：特別展示室、いわて文化史展示室、ミニプラザ

■展覧会の目的

当館は1980年の開館以来、10年ごとを節目として、記念特別展を実施してきました。当館の通常の展覧会は、それぞれ1～3名の学芸員が、分野や時代をしばった比較的小さなテーマを設定して創っていますが、記念特別展は、総合博物館ならではの多角的な内容にするため、全部門の学芸員が参画しています。これまでは、岩手の歴史や風土に特に関わりの深いテーマを選び、10周年には「北の鉄文化」、20周年には「北の馬文化」、30周年には「いわての漆」を開催しました。

2020年に開館40周年を迎えるにあたり、私たちは「三陸」をテーマに選びました。きっかけは東日本大震災です。2011年3月11日に起きた地震と大津波は、戦後最大の災害であり、太平洋沿岸部において2万人を超えるかけがえのない命を奪い、さらに多くの人々の暮らしを破壊しました。直接的な被害を受けなかった人たちにとっても、その後の人生に大きな影響を与えた出来事でした。

その後、東日本大震災の「被災地」としての三陸には、多くの人々の目と足が向けられることとなりました。学術分野でも、考古学的な発掘調査をはじめ、地質学・生物学・歴史学・民俗学など多様な分野の専門家による研究が行われました。これまで十分な調査が行われていなかった地域で次々に新しい知見が発表されており、当館の展示や講座でも折に触れて紹介してきたところです。

また当館はこの10年、被災地の博物館等と連携し、被災した文化財や博物館資料の救出と修復に携わりながら、地域においてそれらの資料がもつ意味や価値を伝える活動を行ってきました。その過程で私たちは、三陸の歴史や多様な文化、豊かな自然の魅力があまり広くは知られていないことに気付きました。

そこで、三陸という地域を様々な角度から紹介することにより、もっと多くの方に三陸の新たな魅力を発見していただくこと、本展覧会を企画しました。加えて、震災から10年という機会に再び防災意識を高めたいとも考えました。

元は2020年の夏に開催するはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施困難となり、1年後の今年に改めて開催する運びとなりました。

本展は、切り口の異なる5つの章から構成されています。それぞれのみどころを少しずつ紹介します。

■1 大地の歴史

地域の自然環境はそこに住む人々の暮らしや文化を支える基盤です。三陸海岸は全体が日本ジオパークに認定されるほど、特徴的な地質や地形が豊富に見られる地域です。そこで本展ではまず、三陸の大地形成のダイナミックな歴史を、豊富な標本に基づいて紹介します。

三陸南部の大船渡市の海岸では、5億年前のカンブリア紀の岩石が見つかっています。これは県内で見られる岩石の中で最も古いものです。また三陸北部の洋野町の海岸で見られる種市層と呼ばれる地層からは、最近、白亜紀の脊椎動物の化石が多数発見されました。海生爬虫類のクビナガリュウの骨の化石や、サメの歯の化石などです。このサメの中には、国内では産出報告のきわめて少ない珍しい種類も含まれていました。本展では、これらの未公開資料を展示します。

また、三陸海岸に見られる個性豊かな植物や海鳥、虫、魚類を紹介します。

春から夏にかけて、三陸海岸の浜辺には、アズマギクやスカシユリなどが咲きます。スカシユリは海岸特有のユリで、浜百合とも呼ばれ、釜石市の市の花、普代村の村の花に定められています。



海岸の岩場に生えるスカシユリ

三陸沿岸の小島には、絶滅が強く危惧される海鳥が繁殖しています。日本では、岩手県釜石市三貫島・宮古市日でしま出島などの小島のみで繁殖するクロコシジロウミツバメやコシジロウミツバメなどの貴重な剥製を展示します。



クロコシジロウミツバメ (館蔵)

珍しい深海魚の標本としてテンガイハタを展示します。テンガイハタは、有名なリュウグウノツカイの近縁種で、細長く左右に平たい体形をしています。展示する標本は船越湾で捕獲されたもので、体長1.4メートルほど。当館で最も大きな魚類標本です。

■2 自然の恵み

三陸の独特な自然環境が、多様で豊富な恵みを生み出し、私たちの暮らしを支えています。ここでは、三陸の大きな特徴である「大地の恵み＝鉱産資源」と「海の恵み＝水産資源」に焦点を当て、その特徴や利用の歴史を紹介します。

豊かな自然の恵みは沿岸の人々の暮らしを支え、独特の文化を育むとともに、他の地域との間に盛んな交流を生み、繁栄をもたらしてきました。そんな一端を見ることができる資料があります。

海外の博物館でも公開されたことのある宮古市近内中村遺跡から出土した巻貝形土器は、ボウシュウボラという貝を模した縄文時代後期（約3300年前）の土器です。この土器は、新潟県村上市の上山遺跡から出土した国の重要文化財である巻貝形土器に非常によく似ています。先の上山遺跡は日本海側、こちらは太平洋側と、出土地点が異なることは、縄文時代の流通を示す証拠ともいえます。

土器とは思えないほど精密なつくりで、岩手を代表する縄文時代の優品の一つです。現在の貝類の標本とともに展示します。



巻貝形土器（宮古市近内中村遺跡）
宮古市教育委員会蔵

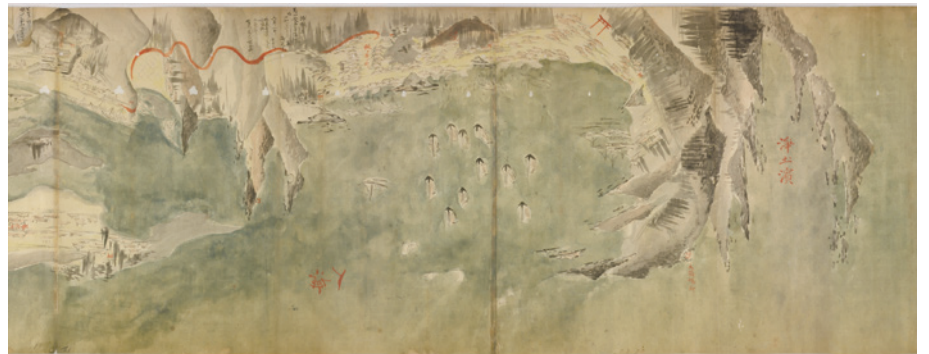
三陸沖は寒流と暖流が出会う場所にあたり、寒暖両系統の魚種が集まる好漁場です。江戸時代のうち17世紀から18世紀にかけての盛岡藩領内の漁業の諸相について、近世の史料を展示しながら紹介します。

また、沿岸の豊かな海産物を運んだ交通路を「閉伊街道図」などから紹介します。江戸時代、城下から県沿岸部に至る交通路線のうち閉伊街道（宮古街道）は、盛岡城下の鉈屋町地内で遠野街道から分岐し、築川・^{やながわ}区界峠^{くさかい}を越え閉伊川沿いに宮古へ至る、通常2泊3日の行程でした。

「閉伊街道図」には、朱と黄色（旧ルー

ト）で道が描かれ、数種類の付箋が貼付されています。この付箋には、人足や石工などの人数が記されており、工事が行われる度にこの絵図が使用されてきたと考えられ、難所の多い沿岸から内陸への交通路の整備には大変な苦勞があったことが想像できます。

また、「南部領閉伊郡之図」からは、盛岡藩が定めた十郡三十三通の行政区を見ることができます。そのうち閉伊郡は大槌通二十三カ村、宮古通五十八カ村、遠野通四十一カ村で構成されていました。藩政時代の沿岸部をうかがい知ることができる貴重なものとなっています。



「閉伊街道図」（宮古港～川目村 部分）岩手県立図書館蔵



「南部領閉伊郡之図」享保4年（1719）館蔵

■3 災害とくらし

三陸の歴史は、繰り返す大きな地震と津波や冷害などの自然災害を乗り越えてきた復興の歴史でもあります。ここではまず、三陸の主な災害史を年表で振り返った後、特に江戸時代の地震・津波被害と対処について、盛岡藩家老が書き記した『雑書』や仙台藩領気仙郡の大肝入であった吉田家に伝わる『吉田家文書』（いずれも県指定文化財）などをもとに紹介します。例えば、元禄(カスケード)地震津波〔津波到達日：元禄12年12月8～9日(1700年1月27～28日)、震央：北米オレゴン・ワシントン州沖、地震規模：M9.0〕については、津波被害の被災者に対して盛岡藩が御蔵米を支給したり、小屋建設のための雑木切り出し許可を代官が陳情したという記録が残っています。

また、今回の展覧会で初めて公開する資料として、明治三陸津波被害を記録したガラス乾板があります。

明治三陸津波〔発生：明治29年(1896)6月15日、死者：約22,000人〕で被災した宮古市鉾ヶ崎の様子を撮影したガラス乾板が2020年3月、盛岡地方気象台から当館に寄贈されました。昭和初期に販売された乾板の箱に重ねて取められていましたが、寄贈されるにあたり当館で専用保存箱を整備しました。この写真を撮影したのは、宮古市鉾ヶ崎の写真師末崎仁平です。写真のうち19枚は、県を通じて宮内省に献納され、同省書陵部に当時の災害写真アルバム「風水害之写真」として保管されています。津波の翌日に撮影が行われたので、現場の様子が生々しく記録されています。明治三陸地震津波による被害状況を記録した写真は約250枚知られていますが、撮影当時の原乾板が確認されているのはこれだけで、大変貴重な資料といえます。



津波を撮影した写真乾板の保存状態



鉾ヶ崎町内に打ち上げられた帆船
(上はガラス乾板、下は乾板のポジ画像)



明治三陸津波被害の写真
末崎仁平撮影(館蔵)

また、東日本大震災と10年間の復興のあゆみを振り返り、湾口防波堤や海底地震・津波観測システムなど、最新の防災の仕組みについても解説します。

■4 信仰とまつり

三陸地方の人々は、豊かな海の恵みに感謝し、航海の安全と平安を祈る信仰の形を守り続けてきました。

大船渡市猪川町長谷寺ちようこくしの十一面観音菩薩立像(県指定文化財)は、陸前高田市観音寺、常膳寺の観音様とともに「気仙三観音」と呼ばれ、古来より三十三年に一度しか開帳されない秘仏とされています。東日本大震災の後、みちのくの仏像研究の第一人者であった故 大矢邦宣氏(元・岩手県立博物館首席専門学芸員兼学芸第一課長)が気仙三観音の特別開帳を提唱し、平成24年(2012)に実現しました。本展では、この十一面観音菩薩立像をはじめ、あらゆる苦難からの救済と平安を祈る人々のよりどころとなってきた長谷寺の仏像と絵馬を展示します。



十一面観音菩薩立像(大船渡市長谷寺蔵)

また、この章ではクジラやサケにまつわる地域独特の信仰などを紹介します。

江戸時代、三陸沿岸では、弱るか息絶えて浜に打ち上げられたクジラは、「寄り鯨」と呼ばれていました。三陸沖は、クジラが餌をとる海域と繁殖活動を行う海域とを往来する回遊路にあったため、「寄り鯨」が度々あったといえます。中でも数百頭もの「寄り鯨」が打ち上が

り、後世まで伝えられているのが、元禄14年(1701)宮古市赤前の139頭の記録です。

宮古市赤前の御前堂は、江戸時代の「寄り鯨」により大飢饉を乗り越えることができたとしてクジラに感謝し、その霊を弔い、大漁を祈願するために祀られたものといえます。度重なる津波により被害を受けて流失したものの、一部の鯨骨は見つけ出され、地域の人々により大切に守り残されてきました。



「寄り鯨」の鯨骨(宮古市赤前 個人蔵)

サケは秋から冬にかけての貴重な日常食でありまた特産品でもあり、経済的に重要視されてきた背景をもつ魚です。そのため、サケにまつわる伝承も多く残っています。ここでは、奇祭として知られている宮古市津軽石の又兵衛まつりを紹介します。

このまつりは、大漁と漁の安全を祈念するため毎年川開きの11月30日に鮭直売所付近で行われています。藩政時代、藩が下流に作った川留かわどめのため、鮭が上流にのぼらなくなりました。飢饉と寒さで苦しむ村人を見かね、後藤又兵衛という武士が、掟を破って川留を開いて村人を助けましたが、その罪で逆さ磔はりつけに処せられた、という言い伝えがまつりの由来となっています。このように、又兵衛を義民として語る又兵衛伝説が広く伝えられています。

■5 三陸の旅

この章では、江戸時代の盛岡藩士や旅芸人、明治時代の絵師、旧制中学校の生徒、大正時代の哲学者など、三陸を訪れた旅人たちの視点を通して、時代や目的によって異なる姿を見せる三陸の多様な魅力を探ります。また、古くから知られた三陸の観光名所を、絵画や絵図などでたどります。

下の図の錦絵は、三代歌川豊国による「陸奥国野田玉川」です。古くから歌に詠まれた名所「野田の玉川」を描いたもので、宮城県塩釜地区から多賀城方面へ流れる砂押川の支流とみるのが有力な説ですが、岩手県野田村の玉川もその候補地として名乗りをあげています。

近代に入って鉄道や航路が整備され

ると、各地で観光ブームが起これ、観光地図や名所案内が盛んに作られました。

「岩手県観光鳥瞰図原図」は、各地の鳥瞰図を生涯で3,000点以上描いた京都出身の絵師である吉田初三郎の作品です。岩手県観光協会のパンフレット『観光と産業の岩手県』(昭和12年(1937)発行)の原図で、鮮やかな朱色の線で描かれた鉄道が印象的です。太平洋側からの鳥瞰図になっており、手前に位置する三陸海岸の描写は緻密です。また、山々も数倍の高さで描かれるなど、「観光と産業」の拠点デフォルメした絵画となっています。

展示の最後には、懐かしい三陸の風景をたどりつつ、皆さんを新たな旅へと誘いたいと思います。



錦絵「陸奥国野田玉川」三代歌川豊国画(館蔵)



岩手県観光鳥瞰図原図(部分 中央は宮古地方) 吉田初三郎画(館蔵)

■事業報告

博学連携事業 岩手県立平舘高等学校の生徒さんによる大漁バンテンづくり

体験学習室ハンズオン資料の製作

大漁バンテンとは大漁時の記念に作られた漁師の祝い着で、本州東部、太平洋沿岸地域の漁村の装束です。その背・袖・裾には縁起の良い図柄や文字が描かれ、豊漁を祈願した神社への御礼参りや宴会で着用したと言われてい

ます。
当館は平成27年度から県立平舘高等学校家政科と連携し、服飾文化の学習・普及を目的として、体験学習室内で着用できる様々な装束の製作を行っています。現在同学習室には当事業で製作した鹿鳴館夜会服、大正期の女学生装束、雫石あねこ装束、水干を設置しています。「ここに漁師の誇り・大漁バンテンを加えよう！」その思いを実現すべく今年度も事業をスタートしました。

事業内容としては、担当教諭による授業時の指導を基本とし、当館学芸員による事業の意義や大漁着の歴史を解説する講座の開催、大正期から大漁着の製作を手掛けてきた花巻市伊藤染工場の見学、(株)東亜和裁・小笠原智恵美氏による和服の講義を行いました。

生地は伊藤染工場に製作を依頼し、生徒さんたちは、その生地の採寸・裁断からスタートです。背の絵柄合せ、裾や袖口の膳作業、表地と裏地の中綴じ、袖付け、衿付けなど多くの工程を手縫いで行いました。なかでも背や脇の柄合せが難しくも挑戦しがいのある作業だったようです。

1月26日には同校の課題研究発表会で披露され、その素晴らしさは報道機関から広く県民にも紹介されました。



完成した大漁バンテンと生徒さんたち

当事業では歴史的背景を踏まえて製作した大人用1着のほか、親子で試着を楽しんでほしいとの思いから可愛い児童用3着も製作いただきました。「来館者に漁師の誇りを味わってほしい！」生徒さんたちの思いの詰まった大漁バンテンを体験学習室にて試着いただければ幸いです。

(主任専門学芸員 米田 寛)

■活動レポート

チャレンジ!はくぶつかん

当館では、主に毎月第2・第3土日に、小学生向けの「チャレンジ!はくぶつかん」を開催しています(詳細は当館HPや館内掲示等をご覧ください)。受付で「チャレンジシート」をもらい、展示資料を見ながらクイズに答えるイベントで、長く人気があります。

展示資料近くに貼ったチャレンジマークの色が主なクイズなので、小さいお子様でも気軽に参加でき、兄弟姉妹やその他ご家族で広い館内を探しながら楽しく見学できます。毎月異なるテーマでクイズが作られていますので、今まで注目していなかった展示資料と新たに出会える機会になり、いつも新しい発見ができると好評をいただいています。

「チャレンジ!はくぶつかん」に挑戦すると、カードにスタンプがもらえます

(各月に1個)。スタンプが4個たまるごとに景品と交換でき、受付で当館オリジナルの文房具をもらえます。毎月挑戦して12ヶ月分のスタンプがたまると皆勤賞となり、来館時に表彰して記念品を差し上げています。



令和2年度は15人の皆さんが最優秀チャレンジャー(皆勤賞受賞者)と

なりました。今年度も皆さんの挑戦を心よりお待ちしております。

★☆☆おめでとうございます★☆☆

- 9回目 細越 空さん
- 4回目 大林志間さん
- 3回目 小笠原多映さん、
滝村菜々子さん
櫻田千夏さん、真尋さん、
悠悟さん
- 2回目 千葉央楽さん、旭登さん
金子侑隼さん、莉子さん
工藤歩由さん、大林美萌さん
滝村紗和子さん、他1名

※表彰風景は、館内2階のミニプラザ掲示板にてご紹介しています。

(専門学芸調査員 高橋 雅雄)

■活動レポート

ストーンサークル
「縄文いわての環状列石」展の“スピノフ”（関連）展示

会期：3月16日（火）～5月9日（日） 場所：旧佐々木家住宅（曲がり屋）・ミニプラザ

5月9日まで開催していた「縄文いわての環状列石」展に関連し、“スピノフ”展示と称して、三つの関連展示を行いました。

一つは、「洋野町の復興調査の成果」というテーマでミニプラザ（2階展示室横の廊下）に展示しました。

工事などにより遺跡が壊される場合は、文化財保護法により発掘調査を行うことになっています。東日本大震災の際にも多くの調査が行われ、後に復興調査と呼ばれるようになりました。

多くの成果がありましたが、その最大のもは、今回の展覧会の発端となった洋野町西平内Ⅰ遺跡の環状列石です。東北地方太平洋側で初めて発見された環状列石で、その既成概念を大きく塗りかえることになりました。関連展示

では、それ以外の洋野町の調査で大きな発見のあった宿戸遺跡、鹿糠浜Ⅰ遺跡を速報として紹介しました。

二つめは、「環状列石のころの岩手」というテーマで、同じくミニプラザで展示しました。

完全な円になる環状列石は、北海道南部～秋田・岩手県北部に偏っています。その南の当時の岩手の大部分は異なる文化でしたが、完全な円になる地域の文化の勢いにあやかろうとしたのか、その影響を強く受けて大きく変化しました。

三つめは、「環状列石と山」というテーマで、パネル6枚のみの展示でしたが、南部曲り屋で行いました（写真）。

環状列石からは地域を代表する山が見える場合が多く、西平内Ⅰ遺跡からは階上岳、滝沢市湯舟沢Ⅱ遺跡からは

岩手山、山梨県都留市牛石遺跡からは富士山が望めます。

曲がり屋（民家）では最近こうしたパネル展示を行っていますので、お時間のある際には、ぜひお立ち寄りください。

（学芸第一課長 金子 昭彦）



曲がり屋でのパネル展示

■活動レポート

トピック展 宮古盛岡横断道路 新区界トンネルの石

会期：令和2年12月5日（土）～5月9日（日）

令和2年12月5日に盛岡市と宮古市をつなぐ宮古盛岡横断道路の「区界道路」が開通しました。これによって急カーブや急勾配が多いことで知られていた区界峠を回避して進むことができ、盛岡市から宮古市への移動がさらにしやすくなりました。区界道路の開通に当たっては、県内最長（約5km）となる新道路トンネル「新区界トンネル」の建設工事が行われました。当館では



トンネル工事で発掘された緑色岩

この時の工事で掘り出された主な岩石を展示したトピック展を行いました。

区界峠の周辺地域には「根田茂帯」と呼ばれる地質帯が分布しています。根田茂帯からは「古生代」と呼ばれる古い時代の岩石が産出します。岩石の種類はさまざまなのですが、主に海の中の砂が固まってできた砂岩や、深い海の底で珪藻や放射虫といった微生物の死骸が堆積してできたチャートという岩石が含まれます（これらの岩石を「堆積岩」と言います）。こうしたことから、区界峠の周辺には大昔に海の中でできた地層が広く分布していることがわかります。

一方でもともとは別の石であったものが、劇的な高熱にさらされたり激しい圧力を受けることで成分が変化してできる岩石（「変成岩」）も見られます。代

表的なものに「緑色岩」と呼ばれるものがあります。これはもともとは海底火山などで作られた「玄武岩」と言う岩石が、高熱環境下に置かれることで岩石を構成する鉱物が変化し、生じた岩石です。こうしたことから、区界峠周辺の地層は長い時間をかけた激しい地球の変動を受けて作られてきたことが分かります。このようにある場所から出る石というのは、時としてその場所がどのようにして作られてきたのかということをお私たちに教えてくれます。

皆さんも外で石を見た時には、その石がどこから来たのかということをお考えてみてください。

（専門学芸員 望月 貴史）



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション

〈令和3年6月1日～令和3年9月30日〉

新型コロナウイルス感染防止への対応について

新型コロナウイルスへの対応のため、制限を設けながら開館しております。
 入館の際にはマスクの着用をお願いしております。また手指の消毒、体調確認や体温測定へのご協力をいただいております。
 混雑する場合は入館や利用を制限し、状況によって臨時休館となることがあります。ご利用を楽しみにいただいている皆様には誠に申し訳ございませんが、ご理解のほどよろしくお願いたします。
 最新の情報につきましては当館ウェブサイト、SNS 等でお知らせいたしますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

- ・「体験学習室」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、土日祝日は閉室しております。
- ・「映像室」は定時上映のみ行い、上映開始後の途中入場はご遠慮いただいております。詳しくはお問い合わせください。
- ・幼児～小学生向けのイベント「たいけん教室」は、定員を減らして開催しています。
- ・団体での入館は午前・午後各100名程度までとします。解説時は30名まで受け付け、さらに数グループに分かれていただくことがあります。

お知らせ

- 夏の臨時開館
令和3年8月2日(月)、8月9日(月)、8月16日(月)は臨時開館します。
- 資料整理に伴う休館
令和3年9月1日(水)～9月10日(金)は資料整理のため休館します。
- 敬老の日 65歳以上入館無料
令和3年9月20日(月・敬老の日)は65歳以上の方は無料で入館できます。

展覧会

- 開館40周年記念特別展「みる!しる!わかる!三陸再発見」
開催期間:令和3年6月12日(土)～8月22日(日)
場所:2階 特別展示室・いわて文化歴史展示室・ミニプラザ
三陸地方の暮らしや文化とそれらを育んだ自然について、まだ広く知られていない部分にも光を当て、三陸の多様かつ奥深い魅力を示す展覧会です。あわせて、東日本大震災から10年が経過し、月日とともに薄れがちな防災・減災意識を再び高める機会とします。
- ◆展示解説会 各14:30～15:30 要入館料
★人数制限あり、当日先着15名
6月20日(日)・7月4日(日)・7月18日(日)・8月1日(日)・8月21日(土)
展覧会の内容を担当学芸員がリレー解説します。
- ◆高校生による郷土芸能特別公演(鑑賞無料)
場所:正面玄関前アプローチ 雨天中止
7月24日(土)13:30～釜石商工高等学校・宮古水産高等学校
7月31日(土)13:30～岩泉高等学校・大船渡東高等学校
- ◆移動展:令和3年9月25日(土)～10月24日(日) 場所:岩手県立水産科学館

県博日曜講座

- 第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料
★人数制限あり、当日先着50名程度(コロナウイルス感染防止対策により変更する場合があります。詳細はHPでご確認ください。)
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。
- *展覧会関連講座
*6月13日「三陸のウミガメは寒冷地仕様?—北限のウミガメ研究でわかったこと—」
講師:木下千尋氏(東京大学大気海洋研究所)
- *6月27日「三陸海岸にサンゴ礁があった!豊かな生物に彩られた1億年前の海」
講師:大路樹生氏(名古屋大学博物館教授)
- *7月11日「三陸の400年～宮古港を中心に～」
講師:假屋雄一郎氏(宮古市教育委員会事務局 文化課・市史編さん室長)
- *7月25日「津波浸水域の水辺の希少植物」
講師:島田直明氏(岩手県立大学准教授)
- *8月8日 ※この回のみ時間 13:30～15:50
「三陸の鮭のふしぎにせまる—鮭の生態と民俗—」
講師:北川貴士氏・吉村健司氏(東京大学大気海洋研究所)
- *8月22日「縄文の逸品『巻貝形土器』からみえてくる三陸の海の豊かさ」
講師:長谷川真氏(宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム副主幹)
- 9月12日「石碑に刻まれた三陸津波の記憶」
講師:日時和哉(当館学芸員)
- 9月26日「前川善兵衛家の出自について(仮)」
講師:昆浩之(当館学芸員)

観察会・見学会(事前申込制)

- ◆第81回地質観察会「1億年前のサンゴ礁の海を見てみよう!」
令和3年6月26日(土)10:00～15:00
田野畑村周辺地域で1億年前の暖かい海の中で堆積した地層の観察をします。
場所:岩手県田野畑村(予定)現地集合・解散
講師:大路樹生氏(名古屋大学博物館教授)
定員:30名程度(小学生以上、小学生は保護者同伴)
参加費:100円(傷害保険料)
募集期間:6月1日(火)～6月6日(日) 定員充足しだい締切
電子メールまたは往復はがきで先着順に受付。詳細はお問い合わせください。
共催:(公財)藤原ナチュラルヒストリー振興財団
- ◆ナイトミュージアム～くらやみの中から語りかける資料をさぐる
令和3年8月6日(金)・7日(土)16:30～17:30 要入館料
ふだんは見られない、閉館後の展示室を学芸員といっしょに歩いて新しい発見をしてみませんか?

対象:小学生～中学生とその保護者、懐中電灯を各自で準備
 ※要事前申込(先着順・定員充足しだい締切)
 募集期間:7月21日(水)～7月28日(水)
 申込方法:9:30～16:30の開館時に来館、または電話にて。

週末の催し

- ◆ミュージアムシアター ※9月はお休みします
毎月第1土曜日 13:30～15:00 頃 講堂 当日受付 視聴無料
★人数制限あり、当日先着50名程度
○6月5日 世界遺産を知る「紅い櫻～富岡製糸場物語～」
(実写/100分/一般向け)
○7月3日 夏休み直前アニメスペシャル(幼児～小学生向け)
①ぞくぞく村のオバケたち②子鬼のゴブリン(アニメ/20分)
③ガリバー旅行記(アニメ/74分)
○8月7日 夏休み映画「夏休みの地図」(劇画/96分/小学生向け)
- ◆チャレンジ!はくぶつかん
毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付
チャレンジ!マークをさがしてはくぶつかんをたんけん!
6月 12日・13日・19日・20日 テーマ:六(ろく)
7月 10日・11日・17日・18日 テーマ:世界(せかい)
8月 14日・15日・21日・22日 テーマ:技(わざ)
9月 18日・19日・20日・25日・26日 テーマ:西(にし)
- ◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)
毎週日曜日 13:00～14:30
幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生5名程度
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみよう。
※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。
※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(9:30～16:30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。1度に3名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

6月	6日	チャグチャグ馬コづくり	8月	1日	ちぎり絵のうちわ★
	13日	ぼねのキツキおもちや		8日	天然石のフォトフレーム★
7月	20日	手づくり万華鏡	9月	15日	化石のレプリカ
	27日	ウォータードームづくり(三陸)		22日	3Dメガネで万華鏡
	4日	スライムであそぼう		29日	オリジナル卵をつくらう
	11日	まが玉アクセサリー			お休み
	18日	カラフルクモづくり			
	25日	ミニさんざいだいこ★			

★印の日は午前(10:00～11:30)と午後(13:00～14:30)の2回実施します。

写真コンテスト「私の岩手山」入賞作品展示

令和2年度にご応募いただいた292点の作品中、入賞作品を展示します。
 期間:令和3年6月19日(土)～6月27日(日)
 場所:グラントホール

利用のご案内

- 開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)
- 休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館) 年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 一般310(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料
()内は20名以上の団体割引料金
※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は入館料免除となります。
※岩手子育てバスポート所有者で、バスポートに記載のお子様とご一緒に来館された場合は、入館料免除となります。
※スマートフォンによる障害者手帳アプリ「ミライID」への対応を開始しました。

岩手県立博物館 第169号 令和3年6月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595
--------------------------------	---